



WAVE

59

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会

2015年10月

Contents

- 2, 3 川越市主催ワーカーズ起業相談会
起業相談会から生まれた ま・た・ね
ワーカーズとして再出発 ひまわり
-
- 4 ワーカーズのごはんはいかが?
心こめてつくります

必要な働き方だから、 社会に広げていきたい



井瀧 佐智子の ワーカーズ運動

井瀧佐智子：25年前にお弁当屋ワーカーズを立ち上げて以来、ワーカーズ運動に関わってきた。今年度より2度目の埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会会長。

お弁当屋旬

私を含めた3人で、月1回の弁当を生協活動の場にバイクで届ける。これが「ワーカーズ・コレクティブ旬」の始まりだった。

1991年3月、11人の浦和の主婦が始めた事業は今年25周年。11人のうち残ったのは私1人になってしまったが、今は22人を超え、事業高は4,000万を超えるようとしている。39歳から25年間、私の生活は常にワーカーズと共にあった。

連合組織をつくらなきゃ

いつかワーカーズで働くとは思ってはいたが、事業を創り出すいわゆる起業は並大抵なことではない。当時、先輩としてのワーカーズは数える程で、連絡会を作っていたが、ワーカーズ・コレクティブというイメージだけが先行し、関係団体からも理解や支援は得られず、「連絡会」という生半可な組織では対抗すべくもなく、ワーカーズ同士の繋がりを強めるため「連合会」に改めた。「連合会」にするまでの悪戦苦闘はすべて忘れてしまったが、総会当日、挨拶しながら思わず涙が溢れてきた事を今でも思い出す。

ワーカーズ・コレクティブに法律を！

ところでワーカーズ・コレクティブという法人格は、今でもこの国にはないことをご存知だろうか。G7先進国の中でこのような法人格がない国は日本だけである。さいたま市民という言葉はあっても、市民事業や市民活動といった「市民」の使われ方はこの国の法律にはない。NPO法も市民活動法にはならず、特定非営利活動法人となり、ここにも「市民」の概念は見当たらない。「WNJ」の前身の「市民事業連絡会」

もNPO法制定に関与したが、市民事業は見事に外されてしまった。

全国組織 WNJ の役割

各地にできたワーカーズの連合組織を束ねる組織の名がWNJ（ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン）と改まった頃、埼玉からの代表としてWNJ主催第2回全国会議から出席してきた。第1回目は嵐山の国際婦人会館で行なわれて、「旬」の代表として出席しているので、今まで全ての全国会議に出席していることになるが、この会議では常に、ワーカーズ・コレクティブ法の制定に関する基調講演や分科会がある。そもそもWNJの結成目的はこの1点にあったと言える。国内の協同組合としての連携が強化されなければワーカーズ法など望むべくもない。WNJの代表として議員会館には何度も足を運び、関係各所にアピールもしてきたが、この国の議員は感度が鈍く、法制局の役員のように現法律との整合性ばかり気にして、新しい法案を作るという国会議員の気概は見えなかつた。

当時の坂口厚生大臣が「ワーカーズ・コレクティブ等の新しい働き方を」と、国会で答弁し、唯一国会の中で聞けたのだが、その後その新しい働き方は派遣社員や増大する非正規雇用に繋がってきた。労働者側の完敗である。雇用と非雇用しかないこの国に、働く人達の協同組合、ワーカーズ・コレクティブが理解されるのは、もっともっと格差が広がらないと難しいのか。

地域の必要に応えつづける

「旬」の新しい事業を立ち上げると同時に助け合いワーカーズ「この指とまれ！」も立ち上げた。もちろん私ひとりでやったわけではない。それから10年。地域に必要な、そして私達に必要なワーカーズと共に働き、共に生きることを目指し残りの人生をかけてみようと思う。